

## 台湾 日本が赤肉系ドラゴンフルーツの輸入を承認

[Taiwan News \(台湾英文新聞\)](#) 2024年6月5日

### 台湾にミバエが生息するため交渉に8年を要した

台北(台湾ニュース) - 農業部(MOA)は水曜日(6月5日)、8年間の交渉の末、日本が台湾からの赤肉系ドラゴンフルーツの輸入を承認した\*と発表した。

[CNA](#)(中央通訊社)によると、生食用の果肉が白いドラゴンフルーツは2010年から輸出されていたが、果肉が赤または紫がかかった赤のものは、ミカンコミバエ及びウリミバエの影響を受けやすい。台湾にこれらの昆虫が生息していることが、日本が申請の審査にこれほど長い時間を要した理由である。

MOAによると、日本への輸出の基本的な前提条件は、果実の中心部を46.5℃とし30分間蒸熱処理を行うことである。動植物衛生検査検疫局(BAPHIQ)は5月に、夏季の果実の輸出に関する検査と認証の問題を扱うため、日本から2人の検査官を招聘した。

台湾は2023年に11品目1万8千トンの生鮮果実を日本に輸出し、輸出額は推定3千万米ドル(9億7千万台湾ドル)に上った。2016年に台湾が赤肉系ドラゴンフルーツの輸出を申請して以来、生鮮果実の合計輸出量は4倍に拡大し、日本は最大の市場となった。

MOAは、12カ国が台湾から赤肉系ドラゴンフルーツを輸入していると付け加えた。

執筆者: マシュー・ストロング記者

\*参考: [一般社団法人全国植物検疫協会ウェブサイト](#)

## チリ 果実輸出のアジア市場開放を推進

[FreshPlaza](#) 2024年6月6日

チリの農業畜産局(SAG)は、チリ果実輸出業者協会(「フルタス・デ・チリ」ブランド)とともに、2024-25年度の果実輸出シーズンに備え、チリ産果実の新しい市場への参入を促進するため、先週、日本、韓国、中国の植物検疫当局を訪問し会合を持った。SAGの代表交渉者であるホセ・グアハルド氏が率いる代表団は、SAGの専門家と民間部門の代表者で構成されており、リンゴなどのチリ産品をこれらのアジア市場に輸出するための植物検疫要件と交渉の進捗について議論することに集中した。

日本では、チリ産リンゴの市場参入に向けた進捗や、日本市場への参入が許可され規制区域内で生産されたすべての果実について、輸送中の低温処理を実施する可能性など、ミバエ対策について代表団の意見を述べた。また、日本による電子植物検疫証明書(e-Phytos)の導入についても議論した。

韓国では、病虫害対策について合意するための韓国動植物検疫庁(APQA)の専門家によるチリ訪問等、この市場を新しい果実に開放する段階に進めることに焦点が当てられた。会議では、チリと韓国の間で電子植物検疫証明書のパイロットプログラムが実施され、満足のいく成果を上げていることが強調された。

代表団は、駐日チリ大使及び駐韓大使と会談し、2025年大阪万博におけるチリ産食品の存在感の重要性や、韓国とのFTA更新に向けた協議の進展についてそれぞれ議論した。

チリは、2023-24年度シーズン中に3万2千トン以上の生鮮果実を日本に輸出した。主な輸出品はレモン、生食用ブドウ及びキウイフルーツであった。韓国には3万3千トン以上が出荷され、生食用ブドウとサクランボが輸出を牽引した。これらの協議は、アジア市場におけるチリ産果実の存在感を高め、2024-25年度輸出シーズンの条件を改善するために重要である。

出典: [simfruit.cl](#)